



(参考仮訳)

プレスリリース No. 14/419  
即時解禁  
2014年9月17日

国際通貨基金 (IMF)  
米国 ワシントン DC

## IMF スタッフ、エボラ出血熱の拡大の経済的影響に対処するため、 対ギニア、リベリア、及びシエラレオネ金融支援を提言

西アフリカにおけるエボラ出血熱の拡大は、深刻な人的・経済的被害を及ぼしており、国際社会による迅速な対応が急務となっている。国際通貨基金 (IMF) のスタッフは、IMF としての今後の対応の準備を行うとともに、IMF の理事会に対し、ギニア、リベリア、及びシエラレオネに対し、1億2,700万米ドル規模の追加的資金支援を行うよう提言している。

クリスティーヌ・ラガルド IMF 専務理事は「エボラ出血熱の発生は、人的、社会的、そして経済的に重大な危機であり国際社会の断固たる対応が求められている」と述べた。「これら3カ国の政府は、この結果直面している深刻な資金調達ニーズを賄うため、IMF に対し追加的支援を要請した。我々は、こうしたニーズに早急に対応すべく、これら政府と密接に連携している」

エボラ出血熱の拡大によりこれら3カ国は、人的被害に加え、経済・社会面でも甚大な影響を受けている。IMF スタッフの推計によると、これら3カ国では農業、鉱業、サービスといった主要な経済部門が混乱に陥っていることから、経済成長は大きく減速する可能性が高い。さらに食料及び労働の供給が困難になっており、貧困層や脆弱層が大きな打撃を受けている。輸出収入と税収が落ち込む一方、医療制度への支出と食料及び燃料の輸入という新たな必要性に迫られ、大きな資金調達ギャップが生じている。

IMF 理事会により承認され次第、資金拠出が即時に行われる。IMF スタッフは、今後6~9カ月の間に3カ国・合計約3億米ドルの資金調達ギャップが見込まれるとしているが、これはこの相当部分を埋める上で有効だろう。同時に、この困難な時期におけるマクロ経済の安定性を支えるためには、これらの国々の二者間・多国間の開発パートナーによる迅速な追加的国際収支支援・財政支援が重要となろう。

IMF 理事会は、10月初旬にこの追加支援案について協議を行う予定である。